

講義名	日本史 A		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

テーマ：日本芸能文化史から見た日本史
本講義の目的は、日本の歴史の中で芸能文化史に視点をあき、その特性を探ることにある。人々が神事をおこなってきた過程において、日本の芸能文化史にも変遷が生じてきた。そこには、その時代を生きた人々の信仰のちがひが窺える。そこで、15回の講義のうち、前半は主に神社の行事、後半は主に寺院の行事について、各々の史料を具体的に取り上げる。そして、日本の歴史の中に位置付けをしながら講義を進める。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、日本の歴史の中で継承されてきた行事の特色を、自分の言葉で一つ説明できるようにする。

提出課題

1. 講義では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。
2. 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、10月後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業に書いてもらう感想文やレポートの内容は、提出後に次の回の授業などで、日本の歴史の事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した15分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。
評価基準は、第1回目の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

予習として各自が調べた内容や大書だと思ふ箇所はメモをとること。
講義中に私語をして、他の人の受講の妨げにならないように注意すること。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
各時間、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くさないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜紹介する。

授業計画

「対面を原則とする科目」である。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがある。授業の進め方の詳細は、後期の第1回目の授業で説明する。

1. 日本史とは
日本芸能文化史きどのようにとらえるか
2. 神事の起源
人々の信仰
3. 御饗会
やすらい祭
4. 宮座の成立
宮座と神事
5. 田楽
御田植祭
6. 田楽
田楽の歴史
7. 能楽
能舞
8. 神楽
神楽と地域
9. 伎楽の伝承
伝承と能楽
10. 念仏の流行
浄土教と人々の信仰
11. 寺院の法会
修正会と鬼
12. 寺院の法会
修正会と鬼(1)
13. 寺院の法会
修正会と鬼(2)
14. 人形浄瑠璃
人形浄瑠璃

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群である。この科目では、日本の歴史の中で継承されてきた行事の特色を知り、日本の神社や寺院の歴史の知識を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、日本の歴史や地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

「対面を原則とする科目」である。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがあるので、詳細は、後期の第1回目の授業で説明する。
現在の日本は、様々な時代の積み重ねで成り立っている。そのような多くの情報がつまった歴史の中で、この講義では神社や寺院の歴史にテーマをしぼり、そこで行われる年中行事（伝統芸能や民俗芸能）について考える。多くの日本の歴史の中から、一つの事柄を深く掘り下げて考える機会にしてもらいたいと思う。